音楽科学習指導案

日　　時：平成 23 年 1 月 25 日 (火)
　　1，２校時
対　　象：普天間高校２学年　音楽選択クラス
　　男子 11 名　女子 19 名　計 30 名
指導主事：金城　優子
授 業 者：知念　美樹

1　題材名　「イメージを伝える旋律をつくろう」
2　題材の目標
(1) 表現したいイメージに相応しい音の動きやリズムの組み合わせを探りながら，全体のまとまりを工夫し，作曲することができる。
(2) 楽曲を聴いて，音楽を形づくっている諸要素や構成，それらの働きによって生み出される曲想などを知覚・感受し，それぞれの特徴を感じとることができる。

3　題材設定の理由
(1) 教材観
　これまでの創作活動では，ヴォーカルや器楽のアンサンブルで演奏するために，既存の曲をアンサンブルの編成に合わせて編曲し，生徒も編曲や合奏に積極的に取り組んできた。しかし，読譜や記譜に苦手意識を持つ生徒が多いことや，学校の実情に適した教材開発の不十分などの理由から，オリジナルの作曲などに積極的に取り組むことができずにいた。創作学習の充実を図るには，生徒が楽しみながら，気軽に作曲に取り組める教材の開発や指導の工夫などを考える必要があった。
　そこで，本題材では，創作活動の充実を図るため，読譜・記譜に必要な音楽の諸要素やしくみなどの学習と関連させ，コード進行を手掛かりにした作曲の手引き「作曲ガイド」を用い，イメージを持って音楽を作るオリジナルの作曲活動を展開したいと考えた。まず,「作曲ガイド」を使い，既習曲を用いた音楽の諸要素の分析や鑑賞学習によるイメージを喚起し，言葉として明確にするなど，基本的な知識の習得を図る。次に,「音楽の終わる感じ」「学校のチャイムを作ろう」といった演習を重ね，本時の題材である「イメージを伝える旋律を作ろう」に取り組む。好きなコード進行を選び，作る音楽のイメージやそのイメージに合わせたリズムを考え，音と音を繋げて曲を作っていく活動を通し，音楽の諸要素の理解や表現の技能が培われ，音楽を感受する力に繋がるのではないかと考える。
(2) 生徒観
　本校の生徒は明るく活発であり,音楽活動の場面においても積極的に取り組む生徒が多い。しかし，音楽活動を支える基本的な力である読譜力や記譜力に，多くの生徒が課題を持っている。検証前に実施した生徒のアンケートにおいて，小・中学校で「音楽づくりや作曲などの創作活動の経験があるか」という質問では,「経験がある」と答えたのは 32％で，68％の生徒が未経験という結果であった。「作曲をしてみたいか」の質問には,「してみたい」と前向きな回答をした生徒は 72％と，半数以上の生徒が関心を持っているが，反対に「したくない」という消極的な回答も 28％で，創作に対して何らかの抵抗や不安があることが推測される。「作曲する時，困るだろうなと思うこと」という複数回答の質問では,「作り方がわからない」「作ったメロディーを楽譜に書けない」「メロディーが思い浮かばない」などに回答が集まった。アンケート結果から，作曲への関心はあるものの，音楽を作る上で必要な基本的な知識や経験が少ないため，不安を感じている生徒は多いと考える。以上のことを踏まえ，生徒の作曲への不安を和らげ，楽しみながら旋律作りができるような学習の進め方を考えた。
(3) 指導観
　事前アンケートによる生徒の意識調査やこれまでの授業の様子などから，生徒の多くが創作活動の経験が少なく見通しを持てないこと，読譜力や記譜力の弱さなどが指導上の課題となることが予想される。作曲ガイドを活用し，単元のねらいを達成するために有効な学習形態や授業の構成を工夫する必要がある。創作活動に対する生徒の不安を少なくし，楽しみながら作曲に取組ませるために，グループ学習の形態をとってゲーム的な要素も織り交ぜながら学習をすすめていく。生徒個々の音楽の基

礎的・基本的な力の差があっても，グループのメンバーと話し合ったり，教え合ったりすることで学習意欲が高まり，全員が何らかの形で作曲活動に参加できるよう工夫した。作る曲のイメージが明確で，そのイメージに基づいた旋律になっているか，また，作った作品を楽譜や演奏で表すことができたかなどを，ワークシートや演奏聴取などから評価する。

(4) 創作の具体的なプロセス

視点	ステップ	学習活動	学習内容
音楽の諸要素の知覚	1	楽曲の分析による諸要素の知覚	・ 同じコード進行を持つ既習曲を題材に，音楽の諸要素（リズム，旋律，和声，拍子，速度，形式）を知覚する。 ・ 同じコード進行を持っていても，リズムや使う音の組み合わせ方によって，異なる印象を与える別の旋律が作られるということに気づかせ，諸要素の働きについて知覚する。 ・ 諸要素の働きによって生み出される効果を学習し，諸要素の形を工夫することで，曲のイメージを伝えることができることを理解する。 演習１ ・ 「曲の終わる感じ」を作り，コード進行の響きがもたらす「緊張」「弛緩」の効果や楽曲の「終止」の形について理解する。
	2	諸要素の聴き取り	・ 鑑賞活動を通して，音楽の諸要素の特徴や動きの変化などを聴き取る。 ・ 諸要素の特徴を聴き取り，内面で感じる漠然としたイメージを自分なりの言葉で表現する。
音を音楽に構成する力	3	作曲方法の理解	演習２ ・ ２つのリズムパターンから４小節の旋律「学校のチャイム」を作り，基本的な旋律の作り方を知る。 ・ テーマについて話し合い，そのイメージを言葉で表す。 ・ イメージが伝わるリズムや旋律の使い方を知る。
	4	イメージを伝える旋律作り	演習３ ・ 好きなコード進行を選び，８小節のオリジナルの旋律を作る。テーマを決め，作るイメージを明確にし，イメージを表現するためのリズムや音の組み合わせなど，音楽の諸要素を工夫して作曲する。 ・ 曲のイメージや工夫した点について説明し，楽譜や演奏で表す。 ・ お互いの演奏を聴き，その特徴を感じ取る。

4　創作の評価規準

ア．音楽への関心・意欲・態度	イ．音楽表現の創意工夫	ウ．音楽表現の技能	エ．鑑賞の能力
表現したいイメージに相応しい音の動きやリズムの組み合わせなどを探りながら，オリジナルの曲を創作することに意欲的である。	コードの構成音を基盤にした旋律，リズム，楽節のまとまりを考え，イメージに相応しい旋律を工夫している。	リズム，旋律，コード進行による和声の響きや特徴，形式を理解し，イメージを表現するための創作の技能を身に付けている。	音楽を形づくっている要素や構造と曲想のかかわりを感じ取って，楽曲の特徴を聴き取ることができる。

5　指導計画（全８時間）

次	ねらい	時	主な学習内容と活動	・教材　☆学習要素	[評価] 具体の評価規準　【観点】
1【音楽の諸要素の知覚】	・音楽を形成している諸要素や構成など，基本的な知識について学習する。 ・作曲者が意図していることを考察し，理解を深める。	1	・既習曲を鑑賞し，簡単な旋律の作り方を知る。 ・いろいろな音楽を鑑賞し，音楽の諸要素やその働きによる効果の特徴をまとめる。	・既習曲の楽譜 ・作曲ガイド ☆旋律，リズム，和声（コード）	[鑑賞] 音楽の諸要素やその働き，音楽がもたらす効果について理解することができる。 【ア，イ，エ】
	・音や音楽を構成する様々な要素が人にもたらす効果に気付く。 ステップ１ ステップ２	1	・コード進行の（緊張と弛緩）を知り，曲の「終わる感じ」を作る。　演習１ ・Beethoven交響曲第６番「田園」の一部を鑑賞し，それぞれの印象をまとめ，その根拠を考える。	・作曲ガイド ・鑑賞教材 ・ワークシート ☆旋律，リズム，和声，長調・短調	[創作] 音楽の終わる感じ（終止）を理解し，旋律を作ることができる。 [鑑賞] 音楽の諸要素やその働き，音楽がもたらす効果を自分なりに感じとることができる。 【ア，イ，ウ】
2【音を音楽に構成する活動】	・旋律の動き，リズムの効果について学ぶ。 ・コードの構成音から旋律の作り方を学ぶ。 ・リズムパターンから旋律を作る方法を学ぶ。 ステップ３	2	・音楽の諸要素について学習する。 ・グループを編成し，様々な場面に合わせた「チャイム」を創作する。演習２ ・作品を発表する。	・作曲ガイド ・キーボード ・ワークシート ☆旋律，リズム，和声，拍子，形式，速度 ・ワークシート ☆音楽の構成など	[創作] ・自分のイメージしたリズム，旋律を作り，楽譜にすることができる。 ・お互いの作品を聴きあい，特徴をまとめることができる。 【ア，イ，ウ】
	・いろいろなパターンのコード進行を聴き，和声の響きやそこから受ける印象の違いを知る。 ・イメージを言葉にして表わすことができる。	1	・既存曲の鑑賞をする。 ・鑑賞した曲で使用されているコード進行から，好きなタイプを選ぶ。 ・グループでテーマを決め，作る曲のイメージについて話し合う。	・作曲ガイド ・キーボード ・ワークシート ☆旋律，リズム，和声，形式，速度	[鑑賞] ・いろいろなコード進行やその響きの効果を自分なりに感じとることができる。 ・コード進行の響きを聴いて感じたイメージを言葉に表すことができる。 [創作] ・作る曲のイメージをまとめることができる。 【ア，ウ，エ】
3【音を音楽に構成する活動】	・グループで練り合いをし，イメージを持って作品制作ができる。 ・自分のイメージに近づけるための工夫ができる。 ステップ４	2（本時）	・旋律やリズムを工夫し，イメージに近づけるための工夫をする。 ・作った旋律を楽譜に書いたり，楽器で演奏したりする。　演習３	・作曲ガイド ・キーボード ・ワークシート	[創作] ・コード進行を基に，イメージしたリズム，旋律を作り，楽譜にすることができる。 ・音楽の要素について理解し，イメージに近づけるための工夫ができる。 【ア，イ，ウ】
	・それぞれの作品の特徴を感じ取り，言葉で表す。	1	・作品を発表し，工夫した点について述べる。 ・他のグループの作品を鑑賞し，特徴を聴き取って感想を述べ合う。		[鑑賞] お互いの作品を聴き合い，特徴を聴き取って感想を述べることができる。 【ア，ウ，エ】

6　本時の指導（第３次：６，７時間）

(1) 本時の目標

①グループで話し合い，作る曲のイメージを明確にする。

②イメージに合ったリズムを考え，コードの構成音を基に旋律を作る。

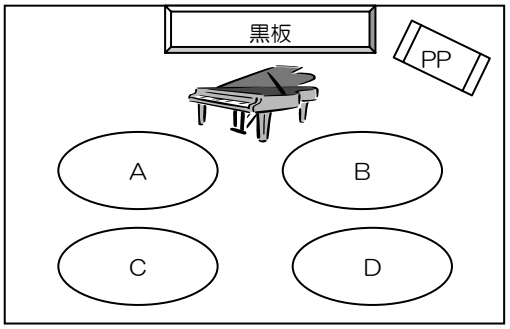
(2) 準備

作曲ガイド，ワークシート，キーボード（各グループ３台），ＰＣ，プレゼンテーション用機器

(3) 本時の展開

	学習活動	指導上の留意点	評価方法【評価の観点】
導入	1．　前回の学習の確認をする。 2．本時の目標を確認する。	◇作曲のプロセスや留意事項などを確認する。 ◇「イメージを伝える旋律をつくろう」の目標と本時の流れについて説明する。	
展開	1．　作曲プランを練る。 ①コード進行の響きから感じたイメージについて話し合い，作る曲のタイトルを決める。 ②作る曲のイメージに合うリズムや響きなどについて話し合う。 2．　曲を作る。 ①コード進行の響きや一部形式の形を確認する。 ②リズムを決める（2小節）。 ③音を入れていく。 ④演奏する。 ※グループ内係分担 ・キャプテン ・キーボーディスト ・リズムメーカー ・メロディーメーカー	◇プランシート，ワークシートを用いてイメージを明確にしていく。 ◇キャプテンがリードしてグループの意見をまとめさせる。 ◇ゲーム感覚で楽しく取組ませ，短時間でまとめさせる。 ◇生徒個々の活動を支援する。 ◇生徒個々の活動を支援する。 ①キーボード担当にコードを弾かせ，音の響きを伝えさせる。 ②リズム担当は，リズムパターンを参考にリズムを決める。 ◇リズムが決まったら，コードに合わせてリズム打ちをさせ，旋律のイメージを掴む支援をする。 ③メロディー担当は，コードの構成音を基に旋律を作っていく。 ◇各グループを観察し，つまずいている箇所をサポートする。 ④キーボード担当は，作った旋律をコード伴奏で弾く。 ◇イメージに近いものができているか中間発表で確認する。 ◇それぞれのグループの工夫した点を発表する。	行動観察 プランシート記入 ワークシート記入 【ア，エ】 行動観察 ワークシート記入 演奏聴取 行動観察 演奏聴取 【ア，イ，ウ】
まとめ	1．本時の学習を振り返る。 2．次回の予告，片付け。	◇本時の学習の成果と課題について確認し，次回の活動を予告する。	

(4) 座席配置



ワークシート

曲を作ろう　②

Exercise２：イメージを伝える旋律を作ろう

テーマのイメージから曲を作ってみよう♪

条件：８小節。一部形式。ハ長調またはハ短調。
イメージに合うメロディーにしよう。

手順	内容
①プランを立てる	・テーマを確認する。 ・テーマのイメージに合うと思うコード進行を選ぶ。 ・タイトルを考える。 ・どんな感じの曲に仕上げるか考える。 ・イメージを言葉にして確認する。
②リズムを考える	・イメージに合うリズムを考える。 ・１つのリズムパターンにするか，２つのリズムパターンにするか決める。
③コードに合わせて音を入れていく	・まず２小節分のメロディーを作る。その音型を効果的に反復させる。
④形を整える	・楽器で演奏して，旋律が自然に聴こえるように音を修正していく。
⑤楽譜に書く。演奏する	

プランシート

※キャプテンは，みんなから意見をきく。全員で考えること。

時間	気分は？	リズムは？	響きは？	速度は？

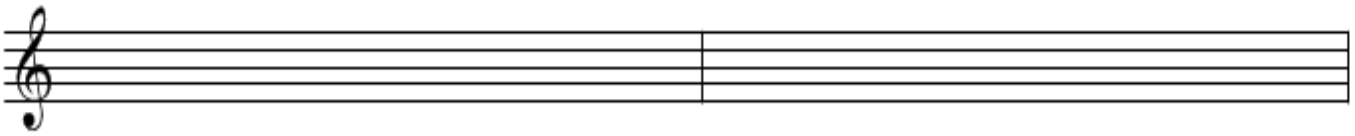
◆曲を作ろう②テーマに合った旋律を作ろう

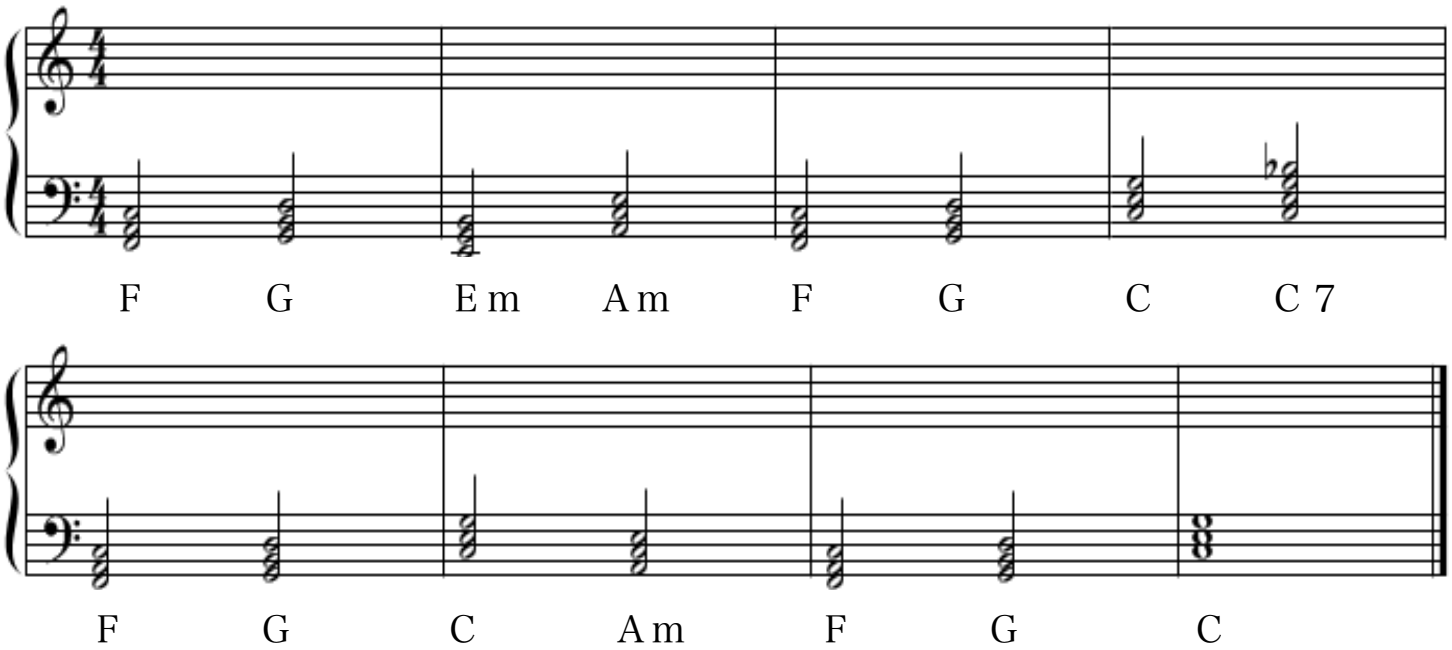
チーム名		氏名	
タイトル			

曲のイメージは？

１．基本となるリズム，２小節を決める

※リズムシートを参考にしましょう



２．コードに合わせて音を入れる。

※「１」で決めたリズム(２小節)を繰り返す